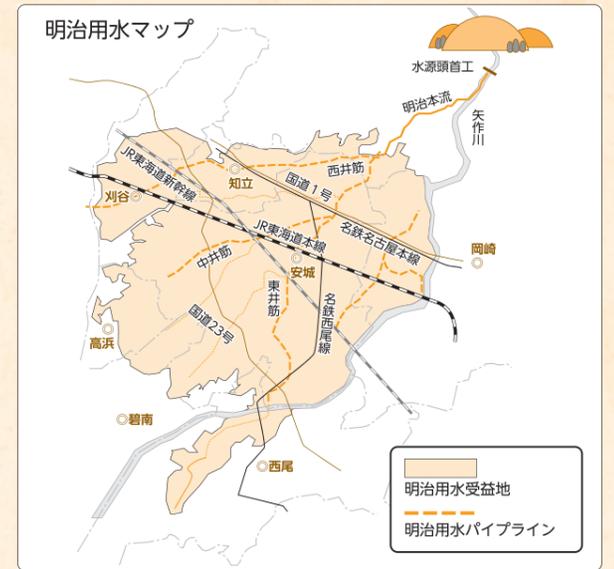


明治用水 通水140年

今年、明治用水が矢作川から取水を始め、140年の節目の年。やせ地だった碧海台地は、明治用水により「日本デンマーク」と

呼ばれるほどの発展を遂げてきました。私達の暮らしを支える明治用水について紹介します。



都築弥厚

明治用水を計画

今から200年以上前、この地域は荒れた野原が広がるやせた土地でした。ため池に依存する農民らの、水不足の苦境を救うため用水計画を立てたのが、和泉村(現和泉町)の都築弥厚です。代官を務めていた弥厚は、高棚村(現高棚町)の数学者・石川喜平の協力を得て測量を始めましたが、水害を招くであろうとの誤解から農民らの強い妨害にあいました。夜中に密かに続けられた測量は5年の歳月を経て完成しましたが、天保4(1833)年弥厚は病死。計画は挫折しました。その後、明治に入って用水計画は石井町の岡本兵松、豊田の伊予田与八郎らにより引き継がれます。2人は協力して地元農民の説得・工事費の調達に奔走。明治13(1880)年、ついに明治用水が完成しました。



「二朝にして十萬石以上の大名の土地の所有に等しき利益を得る」

明治用水の完工は、時の内務卿・松方正義がこう称賛するほどの歴史的大事業でした。



用水が引かれる前は「はねつるべ」等を用いて低い川から水を引いていた

これからの明治用水

地域の財産を後世に

人間の血管のように張り巡らされた約390kmにわたる水路。明治用水土地改良区(大東町)がその配水業務や水利施設等の維持管理業務を行っています。また、明治用水の水を将来にわたってついでるために、精力的に行われているのが水源かん養林事業や啓発活動です。水源である矢作川の上流約543haの森林を、洪水を防いだり水を蓄えたりする「水源かん養林」として育成。水のかんきょう学習館(大東町)では、子ども達に明治用水の歴史や水源かん養林のはたらき、水利施設の仕組み等について伝える活動が行われています。

「水を使う者は自ら水をつくれ」

この理念の元、1世紀にわたりに行われている明治用水の水を守る取り組み。未来を担う子ども達へと、今後も引き継がれていかなければなりません。



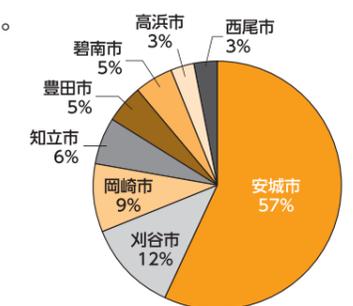
日本デンマーク

安城の発展

明治用水の開削により安城を中心とした碧海郡の農地は増え続け、明治40(1907)年には8000haを超す一大穀倉地帯となりました。大正末期から昭和初期にかけて、その豊富な水資源や多角形農業(米作を中心に養鶏・養蚕・果樹栽培等、多方面にわたる農業のあり方)が「日本デンマーク」と呼ばれるほど全国から賞賛を集めました。

現在は、明治用水の施設を使い、農業用水を中心に工業用水や一部の水道水に利用されています。明治用水の水を利用している農地が一番多いのは安城市で全体の約6割を占めており、私たちのまちが、いかに明治用水の恩恵を受けているかがわかります(右グラフ)。

現在、用水路は85%がパイプライン化され、農地への効率的な配水が行われている他、水路を地下に埋めたことで、その上部の土地は自転車道や遊歩道等に整備され、市民の暮らしを様々な面で支えています。



明治用水を利用している農地面積の市別割合(平成31年4月)
【資料】明治用水土地改良区

～安城の豊かな水の起源に迫る～

安城市文化センター プラネタリウム

「安城 星と水の物語」

安城を潤す豊かな水。その水源をたどる旅は、安城からやがて地球を飛び出し広大な宇宙空間へ。時は遡り、明治用水の礎をきづいた郷土の偉人たちの記憶へ。そこには都築弥厚や石川喜平らの姿があった一。

最新設備を備え、見応えが増したプラネタリウムへぜひお越しください。

●9・10月の放映日 9月15日(日)・29日(日)、10月6日(日)・13日(日)・20日(日) 午後3時～4時(30分の星空解説後、番組の放映)

●観覧料 大人300円、小中学生100円、幼児50円

